



●ギャラリートーク大盛況！

3月1日（土）に、東京のDIC本社にて「第1回色彩教材ギャラリートーク」が開催されました。当日は40名近いご参加をいただき、15テーマによるギャラリートークとなりました。テーマを俯瞰すると、「ゲーテの色彩論」から「AIやCG」といった『時系列の軸』を感じることができました。同時に、『色彩教材の形』として「ポスター」「アプリ」「カルタ」「書籍」「立体造形」など、多様であったと感じられました。各々の色彩教材に対する作者の思いが、プレゼンテーションを通じて垣間見ることができました。

特別セッションの「絵本で学ぶ色彩」は、35冊もの絵本を「色のふしぎ」「補色残像」「色覚多様性」など9のカテゴリーに分類され、子供に読ませた際の反応とともに紹介いただき、非常に興味深い内容でした。

オンラインないし現地とのハイブリッドによる学会発表が定着した中、オンライン配信をせずに「見て、触れて、体験する」機会によって、新しい気づきが得られ、交流が促進され、コラボレーションに繋がると感じました。第2回も実施できるように準備を進めたいと思います。

(吉澤陽介 主査より：032)

●近松門左衛門の浄瑠璃の色名ー3

「新潮日本古典集成」近松門左衛門集から浄瑠璃「国性爺合戦」の中に使われた色名の用例を拾い出してみた。

合戦物だけに、女物や男物の衣装に関する記述は少なく、女物では、「水浅黄」、「朱鞘」、「真紅の下緒」、「浅葱」の4用例。男物では「緋の装束」、「黒皮威」の2用例に過ぎない。

一方、肌や血についての用例は多く、「翠黛」、「朱になったる」、「尊骸朱になって」、「深手朱になって」、「白粉」が2用例、「紅粉」が6用例、「紅」は2用例。「艶ある緑の鬢」、「朱に染みたる」、「翡翠の大づと」、「花の口紅」、「雪の白粉」、「白髪」、「白髪首」など21用例に及ぶ。次に多いのが自然描写についての用例で、「青柳」、「白雪かへって黒し」、「黄鳥」、「赤貝」、「白淡の潮」、「白雲」、「堀の水藍に似て」、「川水白くながるるは」、「川水赤くながるるは」、「青苔」、「白雲」、「しら波」、「白き鳥」、「白石が島」、「しら雲」、「深緑」、「青田」、「青田」などである。

その他は、「玉楼金殿」、「金刀点」、「筑紫」、「赤壁」用例、「赤壁山」、「黄河」4用例、「白砂」、「唐紅」、「赤白」、「白楽天」、「筑紫人」、「黒白」、「白黒」、「白き黒き」で、合計62用例が使われていた。

(永田泰弘)

●環境色彩の設計と評価の方法ー3

◎三つの配色の型

建築物の内・外装の配色は類似調和に属する次の三つの配色の型から選べば充分です。類似色の配色は類似した色だけの配色。類似色相の配色は同一または類似色相の色だけの配色。同一トーンの配色は同一トーンで色相を変化させた配色。

◎マンセル値の活用

マンセル値が記載された色見本帳が入手できます。日本塗料工業会標準色見本帳がお勧めです。これらを使えば使用建材のマンセル値を近似的に推定出来ます。

◎建物の色の測定

マンセル値による色の測定方法は大きく分けて、次の方法があります。

◎標準色票を使う視感測色方法。

◎色彩計を使う機器測色方法。

環境色彩の調査は、屋外調査に限定され、日当たりと日陰の差や、手が届かない部分の測定もありますので、上記の色見本帳を携帯することをお勧めします。同時に、写真撮影を併用することにより、精度が増します。

3号に分けた記事を参考にして、手近なところの建築景観の評価をして、この通信の原稿として送ってください。

(永田泰弘)